

## 「迷惑を掛けているのは誰か」

真道 法子

「次の代にとか、周り近所に迷惑を掛けないように、ああしているこうしている」という話を、頻繁に耳にするようになったと感じています。何かその言葉を聞く度に、迷惑を掛けない生き方をしていかなければならないと感じてなりません。確かに、私も小さい頃から“人様の迷惑にならないように”と教えられてきました。

私の家族は、30代から80代までと、約50歳の差がある人間がひとつ屋根の下で生活をしています。そうすると、衣食住を共にする中で共感し合う生活など、どうしてもできません。特に家族揃って食事をする時は、年齢が離れているため、好みの食べ物・固さ・味に対する感覚が異なり、自分の思い通りにはなりません。しかし、そんな事を言っているのは、食材に対して、あるいは作ってもらった人に対しても申し訳ないと思いますし、実際には、目の前のご馳走を見て食欲が勝ったり、または小言を言って厄介者になりたくないという私です。

以前ある先生から、「お前は頭が上げられないということはあるか？」と問われたことがありました。頭が上げられないという事は、頭が下がりっ放しであって、頭を上げたり下げたりということではないのです。私の日常の在り方とは、自分の都合次第で頭を上げたり下げたりしています。下げたとしても、心の中では“仕方がない”という思いです。こうして私は、頭を下げる下げないという駆け引きを日々繰り返していますから、先程の食事の話で言うと、食材や作ってもらった人には頭が下げられても、好みの異なる人には心底下がらないのです。

ある時70代の男性から、「若い人と一緒に食事を摂るという事は大変だから、あなたの家族は大変でしょう」と話してくださいました。私はその時“自分こそが家族に迷惑を掛けている人間だ”という事を思い知らされ、頭が上げられなくなったと同時に、恥ずかしくなりました。相手も苦勞して私と暮らしているという相手への感謝と、自分の方こそが間違이었다と気付かされた瞬間でもありました。そして、自分の方こそが間違이었다と頭が上げられなくなった時に、今まで見えなかった仏さまがいらっしゃるのではないのでしょうか。  
「<sup>ほんとう</sup>真実の迷惑を掛けないようにする」ということは、自分がどれだけ人に迷惑を掛けているのかを知ることなのかもしれません。